

# 明治安田生命ビル・明治生命館

## 建物諸元

所在	千代田区丸の内 2-1-1
主用途	テナントビル
敷地面積	11,347 m <sup>2</sup>
延床面積	178,954 m <sup>2</sup>
階数	地上 30 階 地下 4 階
竣工年月	2004 年 8 月
事業者・所有者	明治安田生命保険相互会社
設計会社	株式会社三菱地所設計
管理会社	明治安田ビルマネジメント株式会社
URL	<a href="https://www.meijiyasuda.co.jp/">https://www.meijiyasuda.co.jp/</a>

## 主な評価項目

### I 一般管理事項

竣工後の継続的なコミッションング(性能検証)データに基づく CO<sub>2</sub> 削減対策を立案、実施し、CO<sub>2</sub> 削減を図った

### II 建物、設備性能に関する事項

氷蓄熱を中心とする高効率熱源システムの構築、高性能窓システム、外気保証型空調機の採用により、建物全体の環境負荷低減が可能となった

### III 運用に関する事項

BEMS データの解析結果を基に、さらなる高効率化にむけた熱源の運用方法を見直し、実施

## 事業所の概要

本建築物は、重要文化財に指定された“明治生命館”の保存再生と“明治安田生命ビル”の新築を行い、最新技術を備えた“超高層建築物”と“歴史的建造物”の共存を目指し 2004 年に竣工した(明治生命館は 2005 年にリニューアル)。



<新旧建物を結ぶアトリウム>

## 事業所における環境負荷低減の取組

建物エネルギー消費の大半を占める空調・照明設備においては高効率熱源機を基幹に据えた大規模氷蓄熱システムの導入をはじめ、外気保証型変風量空調システム、大温度差変流量システム、高効率照明器具並びに調光システムを導入した。重要文化財再生にあたっては氷蓄熱による低温熱源を利用した冷媒自然循環方式を採用し、搬送動力の大幅な削減を図っている。

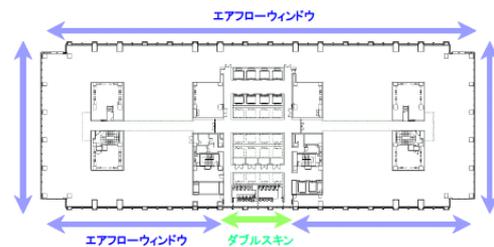
西側に皇居を望む立地を生かし、明治安田生命ビルにおいては、自動制御ブラインド組込型のエアフローウィンドウ(一部ダブルスキン)を採用した(右図)。自然光と眺望を確保しながら適切な日射遮蔽制御を行い、光の導入と日射の遮蔽という相反する要素の両立を図り、照明用消費電力と空調負荷の削減を同時に実現している。

導入されたさまざまな省エネルギーシステムは、施工・管理者・設計者並びに施工者と協同で、調整などの手順を経て運用面でさまざまな改良を加え、さらなる良好な運転状態を追求、実現し、大幅なエネルギー消費並びに CO<sub>2</sub> 削減を図っている。

## 事業所外観写真



<明治生命館(手前)と明治安田生命ビル>



<基準階・エアフローウィンドウ・ダブルスキン平面図>



<基準階 エアフローウィンドウ>